

これまでの取り組み経緯について

平成27年2月23日

第3回石狩川下流幌向地区自然再生ワークショップ

1. ワークショップ等の開催経緯

- 「石狩川下流幌向地区自然再生ワークショップ」を、平成26年2月24日（第1回ワークショップ）に設立し、これまで2回のワークショップと現地視察を1回開催している。
- 第2回ワークショップ（H26. 3. 24）では、幌向地区自然再生の目標、整備内容、地域貢献等について取りまとめ、**『石狩川下流幌向地区自然再生実施計画書』**を策定した。

	開催日	主な議題
第1回WS	H26. 2. 24	<ul style="list-style-type: none"> □ 「石狩川下流幌向地区自然再生ワークショップ」の設立 □ 石狩川下流域における取り組み状況 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 『石狩川下流自然再生計画書』策定（平成19年3月） ➢ 『石狩川下流当別地区自然再生実施計画書』策定（平成20年3月） ➢ 『石狩川下流自然再生計画書』改訂（平成26年1月） □ 石狩川下流幌向地区の自然再生について <ul style="list-style-type: none"> ➢ 幌向地区自然再生についての情報共有
第2回WS	H26. 3. 24	<ul style="list-style-type: none"> □ 『石狩川下流幌向地区自然再生実施計画書』策定
現地視察	H26. 7. 4	<ul style="list-style-type: none"> □ ワークショップメンバーによる 現地視察 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 札幌市立大学 ➢ 平岡公園 ➢ 美唄湿原 ➢ 幌向地区自然再生実施箇所 ➢ 意見交換会



≪幌向地区における自然再生の目標≫
 ～ボグを中心とした湿原環境の再生～
 ●湿原環境の形成
 ほろむい七草をはじめとする湿生植物を育むボグを中心とした湿原環境を形成する
 ～地域社会への貢献～
 ●地域社会の学びの場の形成
 自然を育む場を形成し、人が自然と歴史を学ぶ
 ●自然と共生する地域社会の形成
 自然の価値をふるさとの資源として共有活用する

2. これまでの主な意見

	主な意見	対応状況
第2回WS (H26. 3. 24)	遮水シートは河川に沿っている方だけでなく、手前と奥も仕切るのか。	検討のうえ、遮水方法について提示。(資料-2)
	泥炭の乾燥・分解への対応が急務。劣化を食い止める方法は水位を上げる以外にないので、できるだけ早く実施するしか解決策は無い。	平成27年度に遮水試験を行い、遮水効果確認のうえ、平成28年度に本工事を実施する予定。(資料-2, 3)
現地視察 (H26. 7. 4)	最初にコンパニオンの植物を植え、日陰が形成される状態になったらミズゴケを植える。ミズゴケが定着したらほろむい七草を植えることを考えている。概ね5年を1サイクルと考えている。	平成29年度より段階的な湿生植物の導入作業を行い、5年スパンで整備効果を検証していくことを予定。(資料-3)
	当別には当別高校があり、その造園デザイン科においてコケの研究を行っている。オオミズゴケの避難を行い、遺伝子の研究を行っている。当別高校と連携し、環境学習に取り組んでいる。	増殖・移植作業を教育の一環として行えないかなど当別高校と意見交換等を実施。(資料-1)

3. ワークショップメンバーによる現地視察（H26.7.4）

- ワークショップメンバーによる現地視察を行い、札幌市立大学屋上でのミズゴケ栽培、平岡公園の人工湿地、美唄湿原の植生管理状況、幌向地区の現状を視察した。
- 現地視察後に意見交換会（南幌町ビューロー）を行い、自然再生の取り組みや地域連携の必要性について確認した。

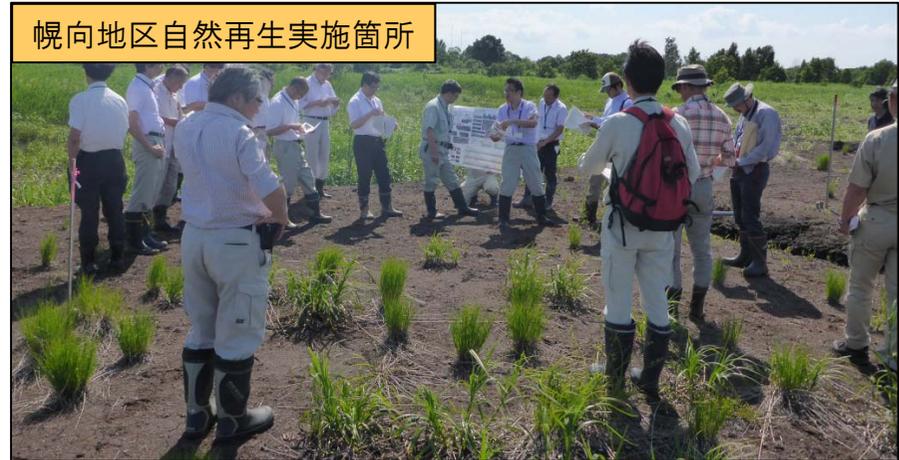
札幌市立大学



平岡公園



幌向地区自然再生実施箇所



美唄湿原



意見交換



4. 環境教育としての自然再生（当別高校との意見交換 H26.10.9）

■ 幌向地区自然再生の中で、ミズゴケ属の移植を行う予定であるが、増殖・移植作業を教育の一環として行えないかなど当別高校と意見交換を行った。

- 当別高等学校の園芸デザイン科の先生、学生に事業説明を行いミズゴケ属の必要性などの説明を行った。
（園芸デザイン科では、庭園用のコケを栽培し、授業の一環で仮の庭園を増設している。）
- 今後、環境教育として実施できるかを検討していく。
- 現地も見学してみたいとの意見もあった。
- 先生、学生共に環境に対する取組に意欲的であり熱心に話を聞いていた。



4. 環境教育としての自然再生（当別高校による現地見学 H26.11.6）

- 当別高校の2、3年生が、幌向地区自然再生実施箇所の現地にて自生植物、外来種、ミズゴケなどを見学した。

